

都市再生整備計画 事後評価シート

早川駅周辺地区

令和7年2月

神奈川県小田原市

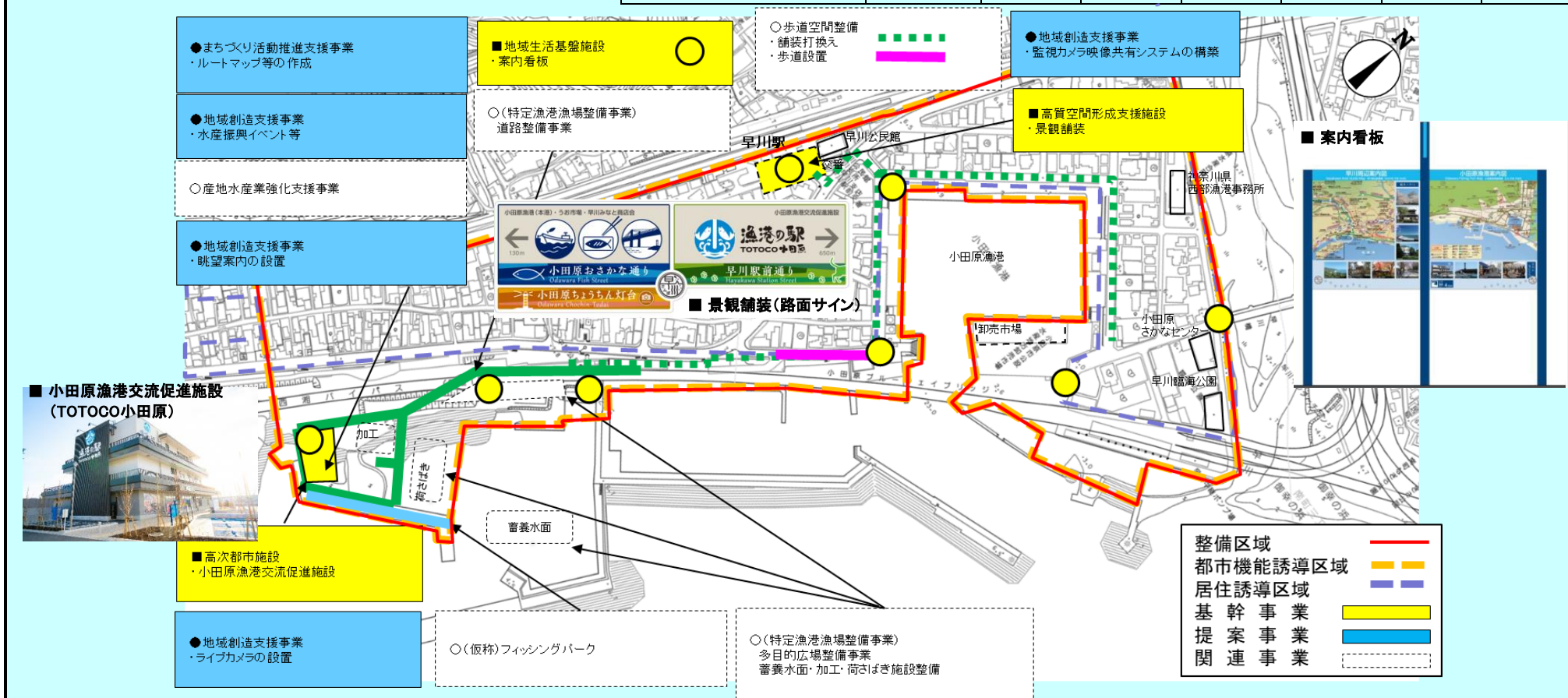
様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県	市町村名	小田原市	地区名	早川駅周辺地区			面積	22ha				
	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	320.8百万円	国費率	0.453						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	案内看板、小田原漁港交流促進施設										
		提案事業	水産振興イベント、ルートマップ等の作成										
		事業名							削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	植栽・照明		台風や塩害等により維持管理に係る負担が大きくなることが懸念されたため				影響なし				
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	駅前広場景観舗装		小田原漁港交流促進施設や周辺施設への誘導機能の強化を図るため				影響なし				
		提案事業	ライブカメラの設置、監視カメラ映像共有システムの構築、眺望案内の設置		新たな観光拠点となる小田原漁港交流促進施設の魅力を広く発信するとともに、緊急時の現場状況を迅速に把握する機能を備えることで一帯の安全・安心なまちづくりを図るため				影響なし				
	交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	—										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
指標1		交流人口の増加	人/年	344,984	H27	844,984	R3		754,599	△	あり	評価年度時点では、コロナ禍による人流抑制の影響もあり目標達成には至らなかったものの、漁港交流促進施設・TOTO小田原の客数は開業以来順調に伸び、1年後の実績にて目標値を大きく上回った。(R4年度実績:918,809人/年)	R4
										なし			
指標2		JR早川駅の乗降客数の増加	人/日	2,800	H26	3,200	R3		2,326	×	あり	基準年度以降、コロナ禍による乗降客数の減少が続いており、1年以内の目標達成も難しい。区域内の交流人口が増加している一方で乗降客数は減少しており、自動車による来客が多いと考えられる。バリアフリー化の検討対象となる乗降客数1日あたり3,000人に達していない。(R4年度実績2,530人)	R4
										なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況	国内有数の観光地である箱根や伊豆の玄関口に位置し、首都圏からも非常にアクセスがしやすい好立地であることから、コロナ禍においても日帰り観光(マイクロツーリズム)の需要が高く、各種メディアに取り上げられる機会が増加した。引き続き、水産資源を生かした「食」の魅力向上や新たな観光コンテンツづくりにより、観光拠点としての機能強化を図り、さまざまな交流や体験の機会の創出、地域の活性化が期待される。												
5)実施過程の評価				実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング							都市再生整備計画に記載し、実施できた					
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	官民連携による取組			指定管理者による管理運営				都市再生整備計画に記載し、実施できた				○	
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
持続的なまちづくり体制の構築							都市再生整備計画に記載し、実施できた						
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

早川駅周辺地区(神奈川県小田原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

令和7年2月		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 早川駅周辺における漁港を活かした賑わいある持続可能な集約型観光拠点の形成 小目標① 鉄道駅へのアクセス性と漁港を活かした回遊と交流の創出 小目標② 鉄道駅を中心とした歩いて回れる集約型都市構造の構築	交流人口の増加	単位: 人/年	344,984	H27	844,984	R3	754,599	R3	
	JR早川駅の乗降客数の増加	単位: 人/日	2,800	H26	3,200	R3	2,326	R3	



まちの課題の変化	地域の特徴である水産資源を生かした回遊・交流施策の展開や拠点性の向上を目指した本計画では、コロナ禍による人流抑制の影響はあったものの、漁港交流促進施設・TOTOCO小田原の客数は開業以来順調に伸びており、日帰り観光（マイクロツーリズム）の需要の高まりを捉え、各種メディアに取り上げられる機会も増加するなど、地域の活性化の効果が発現した。 一方で、「JR早川駅の乗降客数の増加」の指標が未達成となったことから明かなように、本エリアへの来訪は自動車等の利用によるものが依然として多いことから、早川駅のバリアフリー化やアクセス性向上のあり方を検討するとともに、駅周辺のにぎわい創出を図ることが今後の課題となる。また、駐車場台数の適正化や周辺道路の渋滞緩和を含むエリア一帯の機能向上に向けた検討や水産市場施設の再整備に係る調査検討を進めていくことが想定される。	
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	TOTOCO小田原の効果的・効率的な管理運営の継続 イベントなどを通じた小田原の水産物の認知度向上の取組や小田原漁港エリア全体のにぎわいの創出の推進 早川駅の利便性の向上、駅及び本港、新港のアクセス性の向上 老朽化した水産市場施設の再整備	